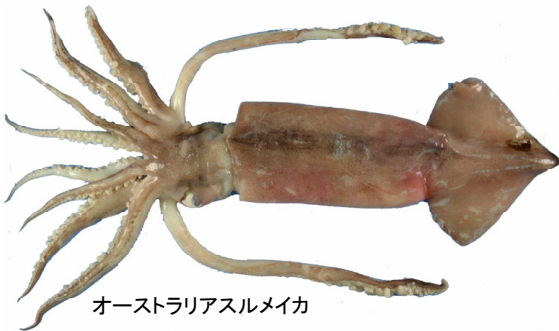


ニュージーランドスルメイカ・オーストラリアスルメイカ 南西太平洋(ニュージーランド海域)

Wellington Flying Squid, *Nototodarus sloanii* & Gould's Flying Squid, *N. gouldi*



ニュージーランドスルメイカ



オーストラリアスルメイカ

生物学的特性

- 寿命: 1 歳
- 成熟開始年齢: 約 6~8 ヶ月
- 産卵期・産卵場: 周年; 主に冬、ニュージーランド南島南岸および東岸の陸棚上(ニュージーランドスルメイカ)、南北両島間の西岸陸棚上(オーストラリアスルメイカ)
- 索餌場: 陸棚上
- 食性: 中深層性魚類、おきあみ類・いわし類
- 捕食者: 海鳥類、あざらし、さめ類等

漁業の特徴

ニュージーランド海域の総称“ニュージースルメ”はニュージーランドスルメイカとオーストラリアスルメイカの 2 種を含む。かつては二国間協定に基づく操業で主要な漁業国は日本だったが、1990 年にニュージーランド政府は日本のイカ釣船への割当量を廃止した。そのため、日本の漁獲量は激減し、ニュージーランドの水揚量が急増した。最近では韓国、ロシア・ウクライナ(旧ソ連)のトロール漁獲も多い。

漁獲の動向

総漁獲量は変動が大きく、1980 年代中頃~1990 年代中頃に 10 万トンを超えた後、減少したが、2004 年には 14 万トン台となり、ここ数年は増加傾向にある。

最近一年間の動き

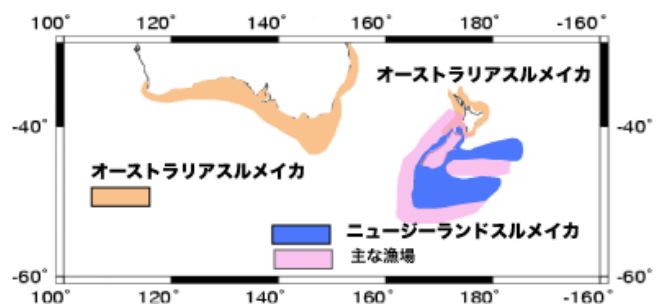
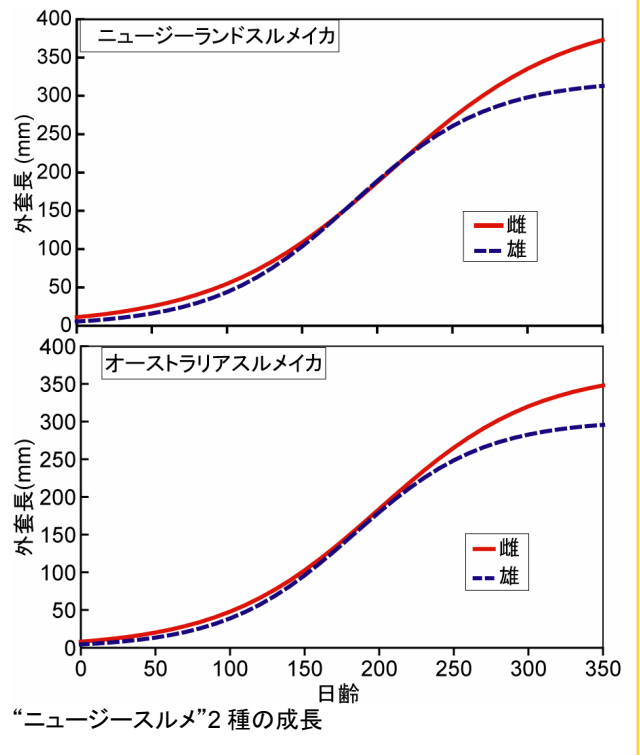
当海域で2006年にいか釣り操業を行っていた我が国いか釣り漁船は4隻と昨年よりやや減少し、漁獲量は約2,000トンであった。一方、各国による本資源の総漁獲量は14万トンを超え過去最大となった。今後、これら外国船の動向の把握も必要である。

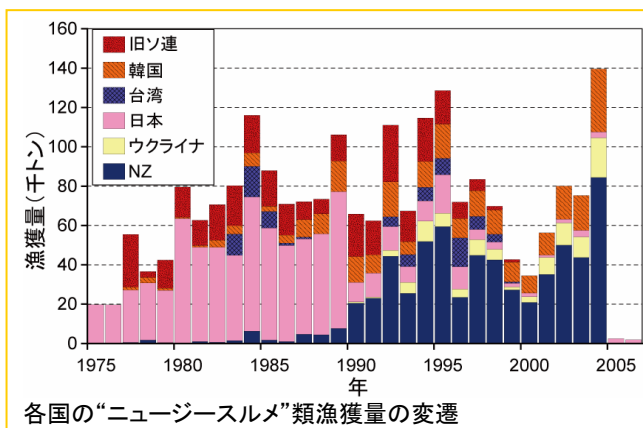
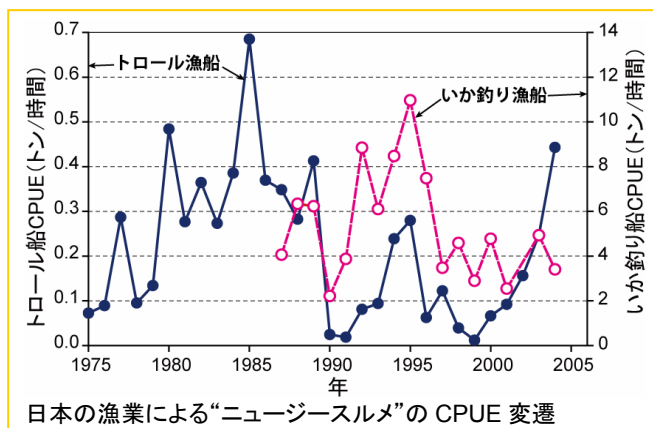
管理・関係機関

ニュージーランド政府

利用・用途

するめ、いかめし、刺身(塩辛を除く、日本のスルメイカと同様な加工原料)



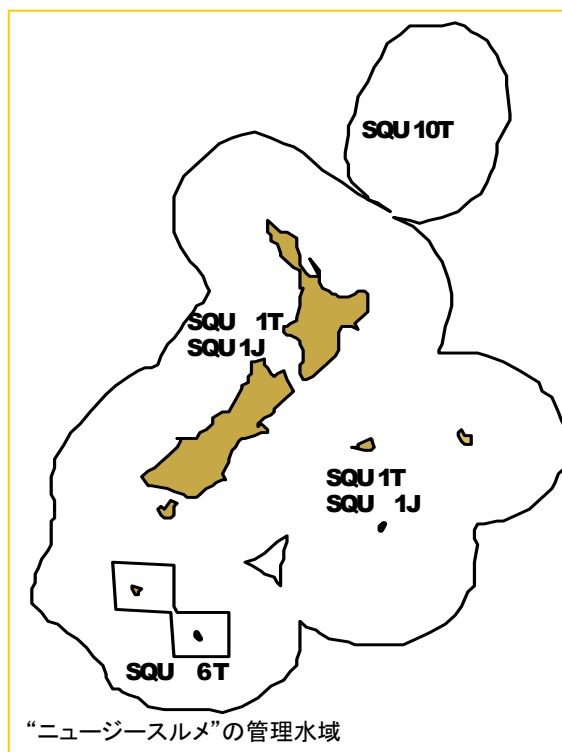


資源状態

一般に、単年性のイカ資源は、毎年新たに加入が決まるため、大きな年変動をする。本資源もトロール船といか釣船それぞれの CPUE (曳網時間当たりの漁獲量と船一日当たりの漁獲量) はかなりの年変動を示す(上図左)。規模は異なるが、両漁法の CPUE の変動はほぼ一致し、特に、1990 年(1989/1990 年)漁期以降で両者とも増加し、1995 年(1994/1995 年)漁期にピークが見られ、それ以降は減少している。いか釣船の CPUE は 1990 年代中頃から最近までの 10 年間は低位で安定しているが、トロールでは 2000 年(1999/2000 年)漁期以降、増加傾向が見られる。

管理方策

ニュージーランドは 1978 年に 200 海里水域制度を施行し、本資源は同国政府の管轄下に入った。当初、同政府はトロール漁業を漁獲量規制し、いか釣漁業は努力量(隻数)を規制した。しかし、同じ資源に対する管理法策の統一を行い、現在ではイカ釣漁業にも漁獲量規制を実施している。現在、本資源は北側の SQU 10T、東西の SQU 1J と SQU 1T 及び南のオークランド諸島の SQU 6T の 4 ストック(右上図)に個別の TACC(商業漁獲可能量)が決められている。イカ類のような単年性の生物資源の維持で、MSY の推定は不可能で必要もない、との考えによる。現状の漁獲規模では将来の加入量や資源量に影響を与えないと考えられる。そのため、本資源の TACC はここ 10 年間に大きな変化はなく約 12 万トンである。TACC に基づき配分される個別譲渡可能漁獲割当量(ITQ)は、SFMC(イカ漁業管理会社)が管理する。南部海域のオークランド諸島の SQU 6T ストックは、雑漁の混獲が少ないイカ狙いのトロール操業が中心となる。トロール操業の本海域での鰯脚類の混獲死亡の制限のため、ニュージーランドの漁業省と環境省は毎年その混獲数の限度を設定している(2003 年は 70 頭)。



資源評価まとめ

- ニュージーランド政府は現在のところ直接の資源評価は実施していない
- 資源水準は低位だが増加傾向

資源管理方策まとめ

- 4 つのストックについて TACC を決定
- ITQ は SFMC が管理
- 鰯脚類の混獲を規制

“ニュージースルメ”の資源の現況(要約表)

資源水準	低位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (2000~2004 年)	3 万 5 千~14 万トン 平均:7.8 万トン
我が国の漁獲量 (2000~2004 年)	1,207~3,332 トン 平均:2,251 トン